

# 少連協ニュース

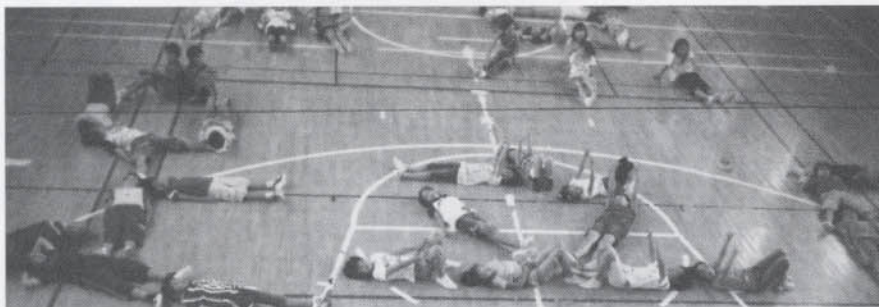
発行所 / 足立区少年団体連合協議会

〒123-0842 東京都足立区栗原 1-3-1 ギャラクシティ内  
足立区青少年センター 青少年事業係  
TEL 03-5242-8169 <http://www.a-shorenkyo.jp>

発行人 野辺 陽子

編集 調査広報部

市川 今井 小野田 鈴木 高澤  
高橋(利) 高橋(祐) 田中  
辻村 手塚 堀内 山本



## 笑顔いっぱいの 子どもたち



### なぜ子ども会が必要なのか

足立区  
少年団体連合協議会会長 野辺 陽子

パートタイマーなどという言葉がまだ一般的ではなかったころの話。PTAの運営委員会や子ども会育成会の集いに、エプロン姿のお母さん達がよくいた。家事の合間をぬって、子ども達のためのお話し合いを真剣にしていた。熱心なあまり時には口論になってしまうこともあったほどだ。会議が終ると彼女等は三三五五、子ども達の待つ我が家へと自転車を走らせたものだった。

ところで今のお母さん達はどうだろう——自分達の生活を乱すような余計なことはしたくない。役員なんかやるのだったら子ども会には入会させない。行事だって自分の家族で行った方が好きなようにできてずっと楽しい。めんどうなことはお断り——と考えている。

少子の時代で兄弟姉妹は少なく、がまんすることがない。おまけに欲しい物は何でも手に入る。社会性を身につける機会がない。そんな子ども達を放っておいたら、またあなた達のような大人になってしまうのに。

子ども会がなぜ今必要か、そのメリットを伝える小冊子を来年の入学式に保護者に手渡し訴える。



# 平成二十二年少連協総会開催される

六月五日(土)午後三時より、

足立区役所十二階会議室において平成二十二年足立区少年団体連合協議会総会が開催されました。

真夏を思わせるほどの好天気に恵まれ、出席者の出足も好調でした。

加藤副会長の司会進行では始まり、野辺会長のあいさつの後、議長に元井総務部長、大林・野口両氏の書記のもと議事進行となりました。平成二十一年度・二十二年度併せて十項目の議案が審議され、滞りなく承認されました。

今年度は役員改選はありませんでしたが、三名の常任理事が交代しました。(文中敬称略)



▲平成 22 年度少連協総会

## 「退任常任理事」

第七地少協 野口 邦明

(書記として留任)

第八地少協 浅香 守弘

第十五地少協 長島 通

## 「新任常任理事」

第七地少協 川下 勝利

第八地少協 浅香 一浩

第十三地少協 佐野美智子

(昨年度は代行)

第十五地少協 高安いずみ

退任されました常任理事の皆様には、今日までご支援、ご協力をお願いいたします。ご協力ありがとうございました。ご退任で終わりということではなく、今後とも、地域はもとより、少連協に対しても変らぬご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

ベテランから若い人達へと世代交代しつつあります。フレッシュなアイデアとスピーディーな行動力を期待しています。

そして、野辺会長体制も早や六年目を迎えました。

「がんばる地少協助成制度」、「常任理事懇親会」さらには「ドツヂ



▲齋藤幸枝教育長のごあいさつ

ビー大会」等の実践により着実に歩を進めています。

今年度も「がんばる地少協」事業を認可された七地少協に助成金の贈呈の発表がありました。意義のある助成金となりますようお願いいたします。

引き続き四時より十四階のピカールに移動して懇親会が開催されました。

司会も鈴木事業研修部長に変わり、和やかな雰囲気となりました。区歌「わがまち足立」の斉唱、馬場理事の手慣れた指揮のもと場内は声高らかな歌声で満ちあふれました。背筋を伸ばし胸を張って、お行儀の良い小学生の姿のようです。

まだ懇親会は始まったばかりなのに会場の空気はすっかりやわらかくなり、笑顔・笑顔の花咲り、



▲盛り上がった懇親会

地域活動をしている人は、やはり違うのかな？ 歌の力もあります。区歌の歌い出しは「笑顔、ひとの輪、手をつなごう」ですから……。皆さんも、しっかりと頭にインプットしておいてください。

来賓の皆様も大勢がご出席くださいました。齋藤幸枝教育長、古性重則区議会議長からは少連協に対する称賛のお言葉をいただきました。

これからも、少連協の活性化と発展、子ども達の笑顔が溢れる足立区をめざし、イメージアップに向け、野辺会長を中心に、みんなで力を合わせて楽しみながらがんばりましょう。



●退任理事あいさつ

地域活動と少連協 長島 通

平成二十一年度で少連協常任理事を退任しました。

私が第十五地少協に関わりだしたのは昭和五十四年頃だったと思います。その頃は、大勢の子ども達に囲まれていました。ゲーム大会やスケート大会等、今でもスケート大会は当地少協のメイン行事になっていて毎年大勢の子ども達も参加しています。

また、足立区子どもフェスティバルでは、バザーや綱引き大会等にも参加し、楽しむ時は子どもと大人、いつも一緒です。

あつという間の三十余年でしたが、少連協の皆様とも楽しく充実した日々を過ごすことができました。これからも少連協の活動を応援していきます。ありがとうございます。

●新任理事あいさつ

新たな出発 佐野美智子

昨年、伊藤会長の代行として活動してきましたが、本年度より正式に、第十三地少協会長に就任いたしました。

少連協に感謝します

足立区スポーツ少年団

本部長 馬場信男

魔法の言葉があるのなら、是非ともそれを使って「幸運」をつかみたいものだ。持ち前の欲深い心もたげてきたのは、昨年の四月十五日、少連協の定例理事会で配布されたチラシを目にした時だった。

「ツキを呼ぶ魔法の言葉」と題する講演会のチラシである。その裏書きがにくい。講演者の五日市さんがイスラエルへ旅行に行った折に不思議なお婆さんに出会ってからツキ始め、人生が大きく変わったとある。まさに神秘的でドラマチック。瞬時に私の単純なハートは動かされ、家内と子ども二人を連れ、一人二千円の講演会に出かけた。

さて、そのお婆さんが教えてくれた魔法の言葉とは？

実は、誰もが知っていて、誰もが使っている身近な言葉なのだ。

「ありがとうございます」「感謝します」という、二つの言葉、である。

嫌なことがあった時に「ありがとうございます」「感謝します」と言うのと、不幸・アンラッキーが続かない、幸運・ラッキーに切り替わっているのだ。と五日市氏は解説する。嫌なことがあると不機嫌になる、心が沈む。そんな時に「感謝します」と声に出して言うのと、ポジティブな心になってくる。

また重要ポイントとして、心に思っただけではダメなのだ、イスラエルのお婆さんが言っていたそう。実際に声に出して言わなければ、パワーは出ないのだ。

確かに、日本にも古来から言葉（ことだま）と云って、口から出た言葉には霊的な力が宿ると言われている。

人は誰も「感謝します！」と云ってくれる人に協力をするのでろうし、もしあなたが「お金」であれば、「感謝します！」と云ってくれる人のところに行きたいのでは？ 幸福の神様も同じなのだ。

言われてみれば、謙虚な心を持ち、何事にも感謝する人は大きく成長している。大リーグのイチロー選手は、毎日グローブやスパイクに感謝しながら手入れをしているそうだし、ゴルフの石川遼選手も常に周りの人に対する感謝の気持ちを口にしてしている。自己中心的な人よりも、周りに感謝して謙虚な人の方が人間として大きく成長して幸せを得ていることを、私たちは経験から知っている。

今の自分があるのは先祖に感謝、家族に感謝、少連協に感謝する心があれば、幸せの神様が常に離れないでいてくれるのである。

「ボランテアは楽しみながらやるもの」と私の尊敬する大先輩から聞いた言葉です。これからも、楽しみながら活動していきたいと思っています。

心であらたに、地少協の役員や少連協の理事の皆様方と一丸となって、未来ある子ども達のために活動していく所存です。

少連協の理事としては、わからないことが多いのですが、子ども達にとつて、良い仲間づくりや、思い出づくり等々に繋げていきたいと思えます。

行事を行うたびに、あふれんばかりの笑顔を見ることができ、それが何よりの励みとなっています。

少連協の理事としては、わからないことが多いのですが、子ども達にとつて、良い仲間づくりや、思い出づくり等々に繋げていきたいと思えます。

少連協の理事としては、わからないことが多いのですが、子ども達にとつて、良い仲間づくりや、思い出づくり等々に繋げていきたいと思えます。



# 子ども会育成者セミナー 第二十回記念大会

七月四日(日) 足立区役所庁舎  
ホールにおいて、「子ども会育成者セミナー 第二十回記念大会」が開催されました。

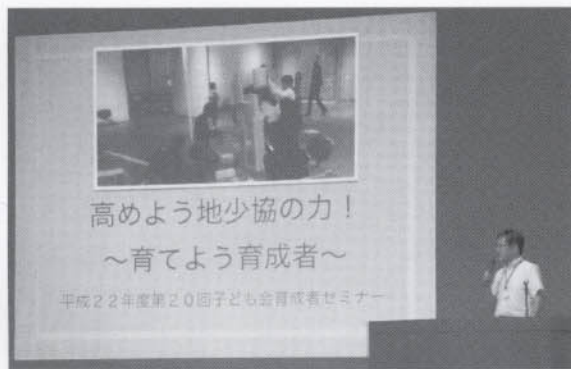
今回のテーマは、「高めよう地少協の力(育てよう育成者)」でした。今回は、参加者を地少協役員と限定し参加者を募りました。

セミナーのねらいとして、「次代を担う育成者の育て方や、彼らを育てていくための土壌となる地少協を活性化させるためのコツを学ぶ。そして近隣地少協との情報交換を通して課題の共有・相互理解を深める」があげられています。

足立区教育委員会・青少年センター青少年教育担当係長 村上長彦氏による基調講演をもとにグループディスカッションが行われました。各地少協とのグループ討議は、大変盛り上がっていました。

\* \* \*

子どもにとつての子ども会の意味は、図1に示されるように、1家庭と2学び場の往復では、人間育成に十分ではありません。



▲村上長彦青少年教育担当係長の基調講演

だからこそ多様な人間関係能力、帰属集団からの社会的性、役割意識を身につける場として、3地域が重要なのです。しかしこの地域という場が、親世代も希薄になりつつあります。現在、町会の加入率は、区全体の半分まで低下しています。

地域における安全場所が、喪失の危機に直面をしているのです。では、このような状況下で、私たち大人・地少協は、何を期待されているのでしょうか。

約四十五年前にスタートした地

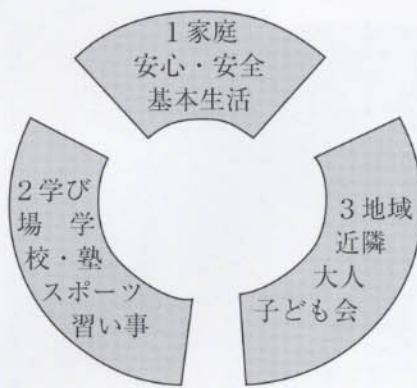


図1

少協活動の現在の課題は、子ども会の活動、子ども会会員、子ども会そのものの減少です。さらに地少協と地区対の環境エリアの相違があげられています。

地域を基盤とした異年齢集団を維持するためには、集団活動の継続化、子ども会の活動場所、地域社会との繋がりの確保が基本となることはいうまでもありません。

以上のような問題提起をもとにグループによる忌憚のない意見交換が行われていました。しかし参加者の立場の違い、経験の差、地域の特性など、任意団体ゆえの難しさをそれぞれが感じたことでしょう。

## ●アンケート& ディスカッションより

昔は、表記しなくても共有の意識のもと成り立っていた地少協が、時代のニーズ、次世代への意識の共有として、文書化など育成者を育てる側の対応も変化しなくてはいけない時期がきているのではないのでしょうか。

子ども会関係者の参加者からは、「十年前に足立区内に取り入れられた学校選択自由化が、子ども会勧誘に弊害をもたらせている。地域で育てる子どもが、自分がどこの地域(住居、学校と生活地域の違い)に帰属しているか不明瞭で、その親世代も居住地域より学校の繋がりを優先させてしまう。行政のあり方に矛盾を感じている」という意見もあがっていました。

育成者の減少の原因は、役員という負担感があるのではないのでしょうか。

区内のある小学校で十年程前、PTAの役員選出に関して改革を行いました。役員負担を軽減させるための措置として、PTA会員全員役員制を取り入れました。今までは、役員になると、専門委員



▲子ども会育成者セミナー参加者

会活動+学校行事の手伝いで、仕事等にも支障がでるため、役員選出が困難でした。しかし全員に役員という意識を持ってもらい、専門委員は、専門委員の仕事のみ、学校行事は、一般の保護者に年一回のお手伝いをお願いしました。子ども達のために年一回(自分が希望した行事)のお手伝い、皆が皆のためにできることを少しずつ手伝ってもらいます(お互い様意識)。

確かに開始当初の役員は、制度定着のため大変だったと思います。が、今も変わらなくPTA会員全員が子ども達のために活動してい

る状況を垣間見て、子ども会という任意団体も存続させるため、子ども達と一緒に楽しむという目的を持ち、育成会全員で行事を一回お手伝いして、役員の負担軽減を図ってみてはいかがでしょうか。

団体トップの負担は歪めませんが、一つの行事に参加することにより、育成者(役員)に興味を持つてもらい、全部をひとりで担うことはないという安心感を与えます。地域のコミュニケーションの一環ととらえてもらうなど、今の状況を打破するための一歩を少連協全体で問題意識を持ち、踏み出していききたいと思えます。

セミナー参加者百名のアンケートより現在の育成者年齢層は、図2のように分布しています。

三十歳代と四十歳代の半数は、一年くらいで交代する子ども会役員です。そう考えると現在を支えている地少協役員は、小・中学生の子育てを終了した、五十歳代を中心とする人員で構成されています。さらに地少協においては、子ども会役員だけで構成されているところ、地区対役員、青少年委員、体育指導委員、町会、民生・主任

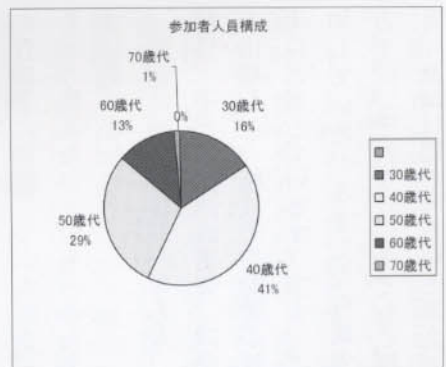


図2

児童委員など兼任されている方が多いところと二分化されています。しかし後者地少協では、育成会の役員から見れば、名前が異なるだけで、数多くの会議に参加している先輩育成者を見ると、尊敬の眼差し、他に積極的な活動に尻込みをして、常に活動が受け身になってしまっているのではないのでしょうか。

足立区の青少年関係団体は、各種あります。育成会が直接各種団体と係わることは、数少ないと思えますが、各地少協を通して連携を密にして協力しあえる体制をとっています。

役員になることのマイナス面を重視せず、親も子ども地域で暮らす楽しさを一つでも見つけていきませんか。

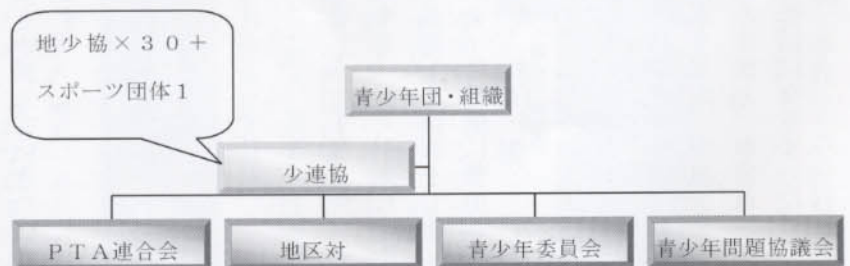


図3



# ジュニアリーダー 研修会を終えて

保塚地少協 辻村宣明

保塚地少協が発足して、実質初めての「リーダー研修会」を六月六日、十三日に花保小学校において実施しました。昨年度は、地少協発足が五月で七月の実施、参加児童もわずか四名でした。花保地域としても一年、東栗原地域としてはかなりの空白期間をおいての開催です。「リーダー研修会」っていったいなんだろう？ という保護者の疑問や不安の中で、いろいろ説明しながら準備を進めました。

四月、全校配布の申込書からの応募がわずかに四名。今年もちょっとさびしい研修会になってしまいかもしれない、という不安がありました。学校経由でもう一度案内状を配布したり、ポスターを学校に掲示していただいたり、各子ども会に説明したりして参加申し込みを待ちました。

一日目に参加した子どもが十二名、その子ども達が友達に声をかけたりして、一日目よりも二日目はさらに増えて二十五名の参加が

ありました。トータルすると三十七名の参加でした。子ども達の間がりと保護者の皆さんのつながりを感じました。

研修の最後に、子ども達みんな一枚の白いA4の紙を渡して、研修会のまとめを自分の好きな方

## 「子どもが話し合う場としての育成者入門講座」

育成者入門講座講師 福井京子

「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」(国立青少年教育振興機構)により、「子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」ことが分かりました。

これは、子ども会活動をしている子ども達は、やる気や生きがいを持った大人になるチャンスが大きい、ということ。つまり、育成者の活動は、子ども達が力強く社会に出て行くために大変重要な役割を果たしています。

その大切な活動を担う育成者の方々に役立てていただけるよう、育成者入門講座では、所属する地域の特徴や、子ども会や育成会の基本的な知識・考え方をお伝えしています。

ご存じのように、地域によって、

法で書いてもらいました。表現は拙くたどたどしいけれど、自分の言葉で、自分の絵で、それぞれの好きな色で書かれた紙には「楽しかった。来年もまた来たい。またどこかで会いたい」ということがたくさん書かれていました。

## 育成者入門講座・講師として

育成者入門講座講師 大林英夫

現状や課題はさまざまです。その多様な現状と課題を、各地区少年団協議会の役員の方々に事前に

私の僅かな知識と経験で、講師の大役をお受けして、第六地少協、淵江地少協を担当いたしました。両地少協とも、当日は、たくさん育成者に参加していただき、何をどう教えたらいいものかと考えてしまいました。

最近には特に保護者の考え方、地域性、子ども達の減少等、諸問題が山積し、一概にその対策が採れずに苦慮しています。でも、ご参加していただきました育成者の方々は、それなりに子どもと関わり、地域に関わりたいと考えてお

整理していただき、講座当日は、それらの課題の解決法について、参加者のみなさんと一緒に語り合う場にしてはどうでしょうか。より具体的に育成会活動に役立つと思います。

多くの子ども達が子ども会活動に参加し成長できるよう、足立区少年団体連合協議会と足立区教育委員会青少年センターが協力しながら、子ども会を支える育成会を応援していきたいと考えています。

られるようでした。

そこで、私は「子どもが参加し楽しめる子ども会」を手助けする「大人が楽しめる育成会」を強調して講義をしました。ボランティア活動に参加して、楽しかった、面白かった、友達が増えた等の前進的な声を聞ける地域にできたらと思います。

入門講座開催に準備をしていただきました。両地少協の会長、役員の皆様方、お疲れさまでした。お世話になりました。



# 思い出いっぱい、 ワクワクキャンプ日誌

キャンプ長(少連協副会長)  
加藤 俊 次

平成二十二年度ワクワクキャンプは、自然の中で体験する新プログラムと新しい友達との出会いなど、楽しい研修を目指した。

※第一クールの参加者(八十名)

※日程 八月一日(日)～四日(水)

※場所・足立区野外レクリエーションセンター

第一日 八月一日(日)曇・雨

午前九時、総勢八十名は、西新井駅から乗車し、途中二回の乗り換えと徒歩で移動、現地に無事到着する。高温多湿の林の中で、早速、開村式を催し、昼食を済ませる。

キャンパーとリーダーは、直ちにキャンプ地散策やテント講習と



▲出発前の大事ななし



▲出来栄は、もちろん good!



▲待ちに待った川あそび



▲さあ、何ができるのかな?



▲サンドウィッチおいしい

設営に取り組む。

女性スタッフは、料理づくりに専念する。かまどでの調理、暑さと煙、多人数の調理、スタッフ不足などの悪条件と格闘の末、夕方にはウエルカムパーティーの準備が整い、予定通り始まる。

第二日 八月二日(月)雨

午前四時に目覚めると、バンガローの屋根に叩き付けるように、激しく雨が降っている。

キャンパーとリーダーは、朝の集い、朝食作り、かまど講習、選択プログラム「アドベンチャーコース・野外クッキングコース・ネイチャー&クラフトコース」、昼食作り「カレーコンテスト」、夕食作りの各スケジュールに取り組む。なお、雨天のため、アドベンチャーコースのピバークと翌早朝の虫取りは中止とする。

第三日 八月三日(火)曇

朝、目覚めると、ほととぎすが、「ホーホケキョ」と鳴いている。

キャンパーとリーダーは、朝の集い、朝食作りと片付け、選択プログラム、川遊び、夕食作りと片付け、入浴、肝試し、班長会議、就寝と、中身の濃い一日となる。

第四日 八月四日(水)晴

全キャンパーは、プログラムを履修され、怪我も事故もなく、山崎副会長他のスタッフとリーダーの安全誘導で、ギョラクシティを目指し、帰途に着く。

※感想 天候に振り回された三泊四日のキャンプ研修は、キャンパーとリーダーが、集団生活の基本を修得するとともに、テント設営、撤去や野外炊事など、キャンプの基本となる技術と、自然と共存する知識を身に付け、一回りも二回りも、人間的に成長されたように思えます。今後は、子ども会、地

域、学校などで活躍されるよう期待します。

## ワクワク遊び塾

### 宿泊キャンプ

青少年事業係  
大橋 愛

今回のキャンプのテーマは「十人十色」です。これは、子ども達が野外生活の中で自分らしさを発揮し、お互いを認め合いながら共に成長していくことを目的として設定されました。

このテーマに沿い、プロジェクト会議のメンバーで試行錯誤しながらプログラムを立てていきました。その結果、メインプログラムとして、選択プログラム、肝試し、川遊びや飯ごう炊さんなど、子ども達にとって多様な体験ができる内容となりました。

第一クールは、途中激しい雨が降り、プログラムの進行が危ぶまれる場面もありましたが、その後は天候にも恵まれ、ほぼ予定通りに実施することができました。子ども達も充実した三泊四日を過ごし、一回り大きく成長し帰ってきました。



### ティーボールって？

第三地少協副会長 佐通 淳

八月一日(日)千住新橋緑地に於いて、第二十一回少年少女球技大会(ティーボール)を開催いたしました。

ティーボールとは、投手のいないボールゲームです。したがって、本塁プレートの後方に置いたバツティングティーにボールをのせ、そのボールを打者が打つことによって始まります。使用するボールはソフトボールと同じ大きさで、硬さは少しやわらかく、ボールに当たっても怪我が少なく安全な球技です。

打者は止まっているボールを九十度のフェア地域に打つため、空



▲ティーボール大会

振りやファウルがほとんどなく、打球は内野手や外野手方向へ頻繁に飛び、一イニングに全員が打つたら交代して(アウトカウントはなし)三イニング五十分で一試合が終了します。

当日は、七町会八チーム約一〇〇名の小中学生が参加して、第五地区町会連合会に所属する町会長、

### 地球環境フェア2010の第三回足立区温暖化防止区民会議

六月十九日(土)二十日

(日)区役所本庁舎に於いて「楽しまう、感じよう、そして考えよう」をテーマに、各企業がエコな取り組みを紹介しました。

広場では、新感覚の電動立ち乗り二輪車「セグウェイ」、ドイツ生まれの自転車タクシー「ペロタクシー」の体験ができ、またスクイバスに乗って区内環境スポットの周遊も大人気でした。

二十日は庁舎ホールにて、足立区温暖化防止区民会議が開催され、ゲストに皆藤愛子さん、気象予報士の井手迫義和さんを招き、エコトークショー、その後、エコな取り組みを実践している足立工業高校の高野智史君、伊興小学校の吉

千住警察署長はじめ多数のご来賓の方々を迎え開会式を行いました。開会式後に始球式の代わりに金子伸司千住警察署長による始球式(ボールをティーの上のせて打つ)で大会は始まりました。子ども達の評判も上々で、来年に向けての反省も多々ありますが、今後もこの球技を続けていきたいと思えます。



▲エコフェア

丸清純君の発表もありました。

栗島地少協、少連協もブースを出し、暑い中頑張っていました。私達が出来たエコ、環境問題について考えてみてはいかがでしょうか。

▼六月四日(金)金子連ビルにおいて、NPO法人東京都子ども会連合会より扇地少協(鈴木会長・前列右から二人目)が表彰されました。



### 編集後記

「腹立ちて炭撒きちらす三つの子を為すに任せて鶯をきく」  
与謝野晶子の歌ですが、育児放棄や虐待のニュースを見聞するたびにこの歌を思い出します。

世の親達も、この位の凶太さで子育てをしてほしいものです。そして、地域の若い親達に遠慮せず声かけをと、野辺会長も提唱しています。まずは「こんにちは」と……。